

福祉の現場を学ぶ

■和知中学校福祉体験学習発表会

和知中学校で十一月十五日、福祉体験学習の発表会が行われ、生徒らが、実際の福祉の現場で知ったことや感じたことを発表しました。

この発表会は、京都府が五年前から取り組む「次世代の担い手育成事業」の一環として開催。生徒たちは、福祉施設の職員などを講師に招いた授業や、福祉施設での職場体験を通して、高齢者や障害者が置かれた現状を知ると

もに、支援する人の苦労や支援をするうえで工夫していることなどを学びました。

高齢者施設での職場体験を発表したグループは、耳の聞こえにくい利用者の方との会話に苦勞したことなどをあげ、職員の人たちがいつも耳元で聞こえるように話していたことなどを報告しました。

生徒らは「施設を利用している人たちのできることとできないことを理解して話すことの大切さを学びました。高齢者の人と話す



体験内容を発表する生徒（和知中・市場）

のは楽しく、勉強になりました」と、今回の体験学習の成果を話していました。

秋の京丹波を走る

■二〇二三京都丹波ロードレース

京都丹波ロードレースが十一月三日、丹波自然運動公園を発着点として開催。三、六八五人のランナーが、紅葉の季節を迎える丹波路を駆けぬけました。

ランナーは、三キロからハーフマラソンまでの五種目三十一部門にエントリー。日ごろの練習の成果を発揮して、沿道の声援にこたえながら走っていました。

発着点となった丹波自然運動公園では、菊花展とうまいもの市も開催。うまいもの市では、町内の豊富な食材を生かしたメニューが販売され、走り終わったランナーや来園者などが、京丹波の秋の味覚を堪能していました。

なお、ハーフマラソンでは、男子二十九歳以下の部に出走した松尾哲裕さん（よさの走友会）が優勝しました。



続々とコースを駆け抜けるランナー（丹波自然運動公園・曾根）

地域防災へ団員ら議論

■消防団員図上訓練

府消防協会南丹船井支部主催の図上訓練が南丹市国際交流会館コスモホールで開催。本町および南丹市の幹部消防団員約七十人が九月の台風十八号での活動を振り返りながら、今後の消防団活動を考える訓練に取り組みました。

訓練では、人と防災未来センター（神戸市）の近藤伸也研究主幹を講師に招き、台風十八号出動時の成果と課題を出し合うワークショップと、架空の地域を設定し、図上で災害時の消防団としての対応を検討しました。

団員らは「情報の共有」や「早い時間からの活動」など、出された課題をもとに今後の活動に向け活発な意見交換を行いました。



風災を振り返り、意見交換する消防団員
南丹市国際交流会館・南丹市園部町